

# 釜石の歴史

よもやま話

9

歴史のたんぽみち編

(4)

問い合わせ  
市文化振興課 22-5714

## 釜口に亘る遺跡

弥生時代編

### 時代の変化と市内の遺跡

弥生時代は約2100年前に繁榮し、縄文時代の狩猟・採集・漁撈を中心の社会から、稲作を行う農耕社会へと変化する時代です。市内で見つかる弥生時代の遺跡も縄文時代に比べ、発見数が1割程度に激減します。これは時代と共に集落のあり方などが変化したためと考えられます。

なお、これまで釜石を含め、東北地方は農耕文化の伝播が遅く、弥生時代に入つても縄文文化を継承したと考えられてきました。しかし、青森県弘前市の砂沢遺跡で弥生時代の水田跡が発見されて以降、稲作などの農耕文化は早い段階で伝播し、縄文文化との融合を図つたことが分かつてきました。

### 釜石を代表する弥生の遺跡

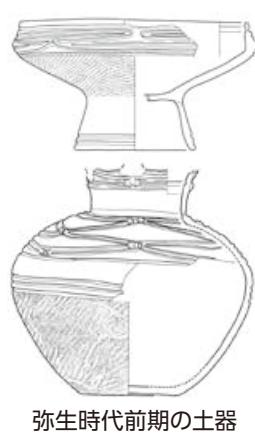
市内を代表する弥生時代の遺跡は室浜遺跡です。

その名のとおり、片岸町の室浜地区に居住穴所在していま  
す。室浜遺跡からは堅穴住居が複数発見された他、土器捨て場らし

き土器密集地も見つかりました。弥生時代前期から中期の珍しい集落遺跡です。

### 縄文土器のよき弥生土器

弥生時代の前期は、工字文と呼ばれる幾何学模様と縄目模様の土器が使われます。縄文時代の特徴を残しながら、壺など弥生時代に特徴的な形が取り入れられます。



弥生時代前期の土器



弥生時代中期の朱塗小型鉢

左の写真は室浜遺跡から出土した弥生時代中期の小型の土器です。縄目朱が塗られており、儀式などで使われた特別な土器と考えられます。

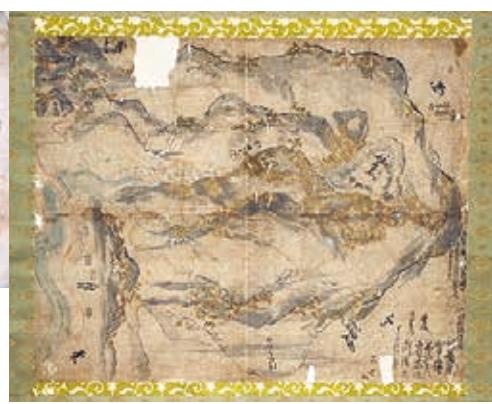
阿部友之進は、名を昭仕、または輝任といい、友之進や将翁は通称でした。江戸時代の本草学（博物学）の中心人物の一人で、平賀源内は孫弟子になります。山田町豊間根に生まれ、没年は宝暦3（1753）年で、享年104歳であったといわれています。

徳川將軍吉宗の時代、阿部友之進は幕命により薬草や薬石を採取するため、日本各地で調査を行いました。釜石の地を訪れたのは、享保12（1727）年のことで、甲子村仙人で磁石が掘り出されたのは、阿部友之進の発見とされています。この磁石とは磁鉄鉱のことです。この時の磁石101貫561匁（約380kg）が江戸に運ばれました。また、享保14（1729）年にも、再び釜石を訪られ、調査を行いました。

阿部友之進の磁石の発見から、86年後の文化10（1813）年、御山奉行小川清六一行による甲子村大橋の磁石岩の調査が行われ、甲子村の肝煎らが立ち会いました。写真の「大橋磁石岩絵図」は、当時の調査によるものでその貴重さから、市指定文化財に指定されました。この絵図には磁石岩や地名などが記されており、磁石岩の大きさは「長サ三丈程幅四間」（長さ約9m、

幅約7.2m）とあります。この岩は、大正11年の「史跡名勝天然記念物台帳」に記され、写真も残っていますが、残念ながら昭和20年代の発破の際に陥没してなくなりました。

享保12年の阿部友之進による磁石発見から130年後の安政4（1857）年12月1日、大島高任は大橋の地で鉄鉱を用い、洋式高炉による鉄の連続出銘に成功しました。この年の旧暦12月1日は新暦の1月15日にあたります。この日、鉄のまち釜石の幕開けとなりました。



市指定文化財「大橋磁石岩絵図」（野田家所蔵）

